

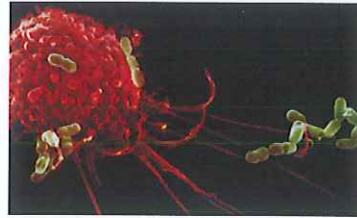


GcMA FORTE

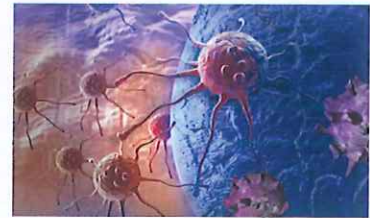
癌免疫療法と癌予防の 新時代



GcMAF（グロブリン成分配合及びタンパク質由来のマクロファージ活性化因子）は、癌、さまざまな原因による免疫不全、ウイルス性および細菌性疾患に対する統合・補完的な免疫療法のための生物学的製剤です。GcMAFは、天然のマクロファージ活性化因子として機能します。さらに腫瘍細胞、細菌、及びウイルスによって患者の体内で生成される免疫抑制酵素ナガラゼ（アルファ-N-アセチルガラクトサミナーゼ）を中和します。



マクロファージがバクテリアを
捕捉・食食



腫瘍を攻撃する免疫細胞

GcMAFは、非活性マクロファージ（単球）を活性化または制御することにより、マクロファージを活性型に変換します。これにより腫瘍細胞やその他の抗原を捕捉・消化する機能の準備を整えます（食食作用）。

革新的なバイオエンジニアリングのよって生まれたGcMAFは、「司令塔」として機能することにより、私たちの体の免疫システムを集中的に再構築します。これにより、マクロファージに癌やウイルスと積極的に戦うように指示します。すべての癌細胞、ウイルス、および細菌はナガラゼを産生します。この酵素は、マクロファージを不活性の状態にすることで、私たちの体の免疫を抑制し、最終的には制御不能の腫瘍の成長、癌細胞の転移、細菌やウイルスの拡散を促進します。腫瘍細胞と感染性病原体は、免疫系の排除率を上回る勢いで増殖します。その結果、さらに大量のナガラゼが放出され、これによりマクロファージ活性化因子がさらに阻害され、免疫力もさらに低下します。(Greco M, Mitri MD, Chiriaco F, Leo G, Brienza E, et al. (2009) Serum proteomic profile of cutaneous malignant melanoma and relation to cancer progression: association to tumor derived alpha-N-acetylgalactosaminidase activity. Cancer Lett 283: 222-229. Deglycosylation of serum vitamin D3-binding protein leads to immunosuppression in cancer

ナガラゼの量が体内のすべてのマクロファージを中和するのに十分になると、腫瘍はより速く成長し始め、病気の徴候がさらに明白になり、致命的な影響が現れます。(2002) Tumor cell alpha-N- GcMAF-related macrophage

GcMAFの継続的な投与により、腫瘍細胞やウイルスを攻撃するマクロファージを活性化し、免疫力が向上します。

GcMAF Forteは、以下の特異的な疾患に免疫療法を提供します:

固形腫瘍の癌

（乳がん、前立腺がん、結腸直腸がん、卵巣がんなど）腫瘍の進行を抑えます。

癌細胞による血管新生を阻害する

（腫瘍への血液供給）を阻害する

アポトーシスを誘導します。(癌細胞の自滅)

腫瘍による免疫抑制因子の産生を排除します。

免疫不全および感染症

（HIV、ヘルペス、ライム病など）

炎症を抑制します。

全ての免疫系の反応を改善します。

慢性疲労症候群

慢性疼痛の軽減

ミトコンドリアレベルでのエネルギー産生を増加させます。神経保護作用。

成人の神経形成を促進します。



お問い合わせはMMJ事務局まで
info@qssjapan.com